

## 若手社員のコミュニケーション力を高めるには

近年、多くの企業から、

「最近の新人や若手社員は、何を考えているかわからない。」

「相談してこないし、聞いても“大丈夫です”で、本音を言わない。」

「うまくコミュニケーションがとれないまま、すぐに辞めてしまう。」

とのお相談があります。実際、現場でも下記のような新人や若手社員が増え、コミュニケーション力の強化は、どの企業でも共通の課題と言えるかもしれません。

コミュニケーション力欠如社員の傾向
相手の話を聞いても、肝心なことを押さえてない 「〇〇部長は、結局何を言いたかったんだろう・・・」
相手の言っていることがわからなくても、確認しない
会話の中から、相手の心理や本音を推察できない
相手の心理状況に対応したトークができない
傾聴姿勢を習慣化できていない (相手の話す気が失せてしまう)
自身の考え、意見を簡潔に伝えることができない (枝葉の長い説明になる)
相手との対立を恐れ、本音を言わない
「この人は相性が合わない」と感じると、 関わることを避ける

しかし、若い方のコミュニケーション力欠如は、仕方がないことかもしれません。なぜなら、コロナ禍でface to faceの機会（授業、ゼミナール、サークルやアルバイト、ボランティア活動等）が減少したことや、SNS普及で文字によるコミュニケーションに慣れ過ぎてしまっている等、環境がそうさせてしまっているからです。

重要なことは、前述の背景や若い方の傾向を理解した上で、会社が必要な教育を準備することでしょう。間違っても、「**時間が経てば慣れる（できるようになる）だろう**」と放置してはなりません。

なぜならば、コミュニケーション力は、「自分は人見知りだから仕方がない」「自分と相性の良い職場（人）が他にある（いる）」と、**簡単に諦めやすい性質を持っている**からです。

そのため、例えば、話し方や聴き方、叱られ方や褒められ方といった具体的なスキルを教えることで、「**こうすれば良いのか**」「**私にもできそうだ**」と期待感を高め、実践させることが、まずは重要なのです。

弊社の研修ではコミュニケーションの基本理解だけでなく、実技訓練にて、各スキルの修得が可能です。ご興味のある方は、下記リンク、またはQRコードよりお問い合わせください。

> お問い合わせはこちら

